

第7号様式 (規程別表第1 第2項第2号エ関係)



出張報告書

令和 7 年 / 12 月 2 日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 公 明 党

代表者氏名 福島 さとり

出張者氏名 真鍋 修司 中尾 健一 中村 敦子
用 役 多 上田 さおり

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和7年11月4日から令和7年11月4日まで

2 結果の概要

用務先	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) マニフェスト作成について 1. 作成したきっかけ 2. 完成までのロードアップ 3. 完成後の取り組み 4. 作成の評価 5. その他
添付書類 ■視察報告書5部	備 考

3 届出事項の変更等 ☐ な し ☒ あ り (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

☐ 精算額は、令和 年 月 日届け出た額 (円) と同一額である。

☒ 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

岡山駅から岡山市役所前において、岡電バスを利用予定でしたが終日、岡電バス運賃無料デーだったため、差額を戻入しました。

$$@160 \times 2 \text{ (往復分)} = 320$$

$$320 \times 5 \text{ 名分} = \underline{1,600 \text{ 円}}$$

支 出 額	68,900円
精 算 額	67,300円
支出 差引 額 (戻入)	1,600円

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前							
発着地							
後							
前							
経 路							
後							
前							
用務先							
後							
前							
宿泊先							
後							

会派名	公明党	氏名	真鍋修司
-----	-----	----	------

總 實 績 分

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	変更理由等
11月4日	塚口	大阪	阪急	240		
	大阪	岡山	JR	3,080	3,380	新幹線
	岡山駅	岡山市役所前	バス			岡電バス運賃無料デーの為
	岡山市役所前	岡山駅	バス			岡電バス運賃無料デーの為
	岡山	大阪	JR	3,080	3,380	新幹線
	大阪	塚口	阪急	240		
交通費計				6,640	6,760	交通費差額(②-①)
交通費合計(②)				13,400		320

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	変更理由等
宿泊費等計					宿泊費差額(④-③)
宿泊費等合計(④)					
旅費合計(⑤)					旅費差額(⑥-⑤) 320
				13,400	

明算經

会派名	公明党	氏名	中尾健一
-----	-----	----	------

概算払分(支出番号 50)

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	備考
11月4日	園田	大阪梅田	阪急	200		
	大阪	岡山	JR	3,080	3,380	新幹線
	岡山駅	岡山市役所前	バス	160		岡電バス
	岡山市役所前	岡山駅	バス	160		岡電バス
	岡山	大阪	JR	3,080	3,380	新幹線
	大阪梅田	園田	阪急	200		
交通費計				6,880	6,760	
交通費合計①				13,640		

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包摂宿泊費	備考
宿泊費等計					
宿泊費等合計(③)					
旅費合計(⑤)				13,640	

實績分

田代

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	変更理由等
11月4日	園田	大阪梅田	阪急	200		
	大阪	岡山	JR	3,080	3,380	新幹線
	岡山駅	岡山市役所前	バス			岡電バス運賃無料デ-の為
	岡山市役所前	岡山駅	バス			岡電バス運賃無料デ-の為
	岡山	大阪	JR	3,080	3,380	新幹線
	大阪梅田	園田	阪急	200		
交通費計				6,560	6,760	
交通費合計(②)				13,320		
交通費差額(②-①)						320

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	変更理由等
宿泊費等計					宿泊費差額(④-③)
宿泊費等合計(④)					旅費差額(⑥-⑤)
					320
旅費合計(⑥)					13,320

会派名	公明党	氏名	中村敦子
-----	-----	----	------

中村敦子

● 概算払い分(支出番号 50)

事實續分

田・山・原

[illegible]

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	備考
宿泊費等計					
宿泊費等合計(③)					
旅費合計(⑤)					
				13,900	

日付	発	着	交通手段	運賃	急行料金等	変更理由等
11月4日	JR立花	岡山	JR	3,410	3,380	新幹線
	岡山駅	岡山市役所前	バス			岡電バス運賃無料デ－の為
	岡山市役所前	岡山駅	バス			岡電バス運賃無料デ－の为
	岡山	JR立花	JR	3,410	3,380	新幹線
交通費計				6,820	6,760	交通費差額(②-①)
交通費合計(②)				13,580	320	

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	変更理由等
宿泊費等計 宿泊費等合計(④) 宿泊費差額(④-③)					
旅費合計(⑥) 旅費差額(⑥-⑤) 320					
				13,580	

國史

党
明
公

氏名

党
明
公

實績分

單位：日

交通費計	7,140	6,760
交通費合計(9)		13,900

交通費計	6,820	6,760
交通費合計(2)	13,580	
交通費差額(2-1)	320	

宿泊費等合計(③)13,900宿泊雙差鹽(4-3)

旅費差額(6-5)

13.580

金派名	公明党	氏名	上田 士郎
-----	-----	----	-------

氏名

党明公

網実績分

單位: 円

[illegible]

日付	宿泊地	宿泊費	宿泊手当	包括宿泊費	変更理由等
宿泊費等計					宿泊費差額(④-③)
宿泊費等合計(④)					

旅費合計(⑥)	13,420
---------	--------

宿泊艇艙題(4-3)

旅費差額(6-5)

320

2025 年 11 月 12 日

会派視察報告

公明党 真鍋修司

〈視察年月日〉 2025 年 11 月 4 日 (火)
〈視 察 先〉 岡山市議会公明党議員団
〈視 察 項 目〉 マニフェスト作成について
〈視 察 者〉

真鍋修司 中尾 健一 中村敦子 田中俊亨 上田さおり

〈視 察 内 容〉 尼崎市議会公明党議員団として、今後予定している、政策集（マニフェスト）の作成を進めていくにあたり、マニフェスト大賞実行委員会主催によるコンテストで、2014 年から 3 回にわたって、優秀成果賞等の受賞をされている岡山市議会公明党議員団の取り組みについて調査をしました。

当日は、岡山市議会公明党議員団（以下、当議員団）団長の則武宣弘議員と、初回から作成に中心的に携わってこられた林敏宏議員にご臨席を頂き、説明は主に林議員にして頂きました。

マニフェスト作成に至られたきっかけは、2009 年 4 月に岡山市が政令指定都市に移行したことで、政令市が持つ権限を活かした政策づくりをしようと当議員団で決意されたことですが、その背景としては、1 つには、「政策立案」などの本来の目的に添うような使途になっているかという政務活動費への厳しい世論の高まり、2 つには、当議員団として市民相談を進める中で、課題を整理し、どの層にどのような問題があるのか、求められる政策的ニーズの優先順位は何かを体系立てて検討したことがなかったことから、政策立案の責任を果たすことにありました。

作成までに要した期間は 4 年度で、最初に国立大学の現役教授を政策アドバイザーに迎え、期間中、問題意識の共有をしながら進められました。

初年度は「岡山市のまちづくり」に関するアンケート調査を、調査会社と契約し市民 1 万人に行いました（回収数は 3,675 通）。2 年度はアンケート調査の入力・集計、また市民への報告のためのアンケート結果概要版を作成、公表。3 年度は分析及び政策立案取りまとめの業務、そして 4 年度に、人口減少時代に備えての政策提言書「岡山市民未来創生プラン」（表紙も入れて全 175 ページ）の印刷・製本をされ完成しました。

3 年度目の政策立案においては、行政担当部局、町内会や NPO 法人など街づくりに関わっている方々－認可保育園、認可外保育園や市立幼稚園、地域子育て支援センター、放課後児童クラブ、公民館、商店街関係者、マスコミ、教育関係者などから直接、意見を聴取されました。

そしてこれらを受けて、市議団として具体的な政策検討会議を重ね、政策立

案の項目を検討され、政策アドバイザーとともに政策フレームを組み上げ、項目ごとに担当を決め、具体的な政策の記述作業に取り組まれました。政策の具体的な内容に関しては、議員自らのアイデアによるもので、調査会社やシンクタンクに一切委託しておられず、かなりの労作業になったとのことですが、後にこの苦労は議会での提案活動に生かされることになったそうです。

完成した政策提言書は、多くの方にヒアリングをした経緯もあり、市長ら市当局の政策担当者も大きく評価、その後の、議会でも度々、プランを基に提案や質問を行ってこられました。具体的な裏付けのある提言に対し市当局から前向きな回答を得ることができたとのこと。

また、街づくりなどのNPOやヒアリングをした関係者が、議会における公明党の質問を傍聴しに來られ、自分たちの意見を具体的に議会で提案してくれる存在として、公明党に大きな期待を寄せるようになったそうです。

こうした取り組みに対し、「市民オンブズマンおかやま」は、当議員団が実施した調査活動や創生プランの立案にかかった諸経費については、一切問題になかったとのこと。

〈所感〉岡山市議会公明党議員団の方が説明して下さった中で、「この政策提言書は市当局への要望書ではなく、議員団として市民へ向けて出したものである」と言われました。これは私たち議員が活動をする中で大変重要なことであると改めて思いました。

市民から負託を受けて当選をさせて頂いて、何をめざして活動をしていくのか、何を市民に約束をするのか、議員も自らにそれを課して取り組んでいくことが本来の姿であることを再確認させられました。

また、議員個々の取り組みも大切ですが、個人では、任期4年間という限られた時間の中で政策を実現できる項目に限界がありますが、議員団として政策を作り、議員団全体として政策要望をしていくことで、その広がりは大きなものになると思います。

今回の視察を通じて、政策作りの進め方や大切なポイントなど多くのことを学ぶことができました。これらのことを生かして、尼崎市議会公明党議員団として、近いうちに政策づくりに取り組んでいきたいと思っています。

「公明党岡山市議団 マニフェスト」視察報告書

1. 視察の概要

日時 2025年11月4日 午後1時～4時

視察先 岡山県 岡山市

説明者 公明党岡山市議会議員 則武 宣弘様、林 敏宏様

出席者 真鍋修司、中村敦子、田中俊孝、上田さおり、中尾健一

報告者 中尾 健一

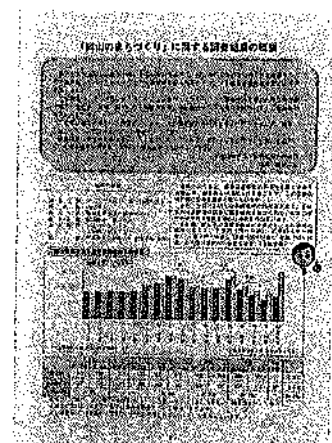
視察内容 『マニフェスト(岡山市民未来創生プラン)』について

視察目的 作成経過およびその成果について

尼崎市議会公明党議員団として、マニフェスト大賞で3度の優秀賞を受賞した公明党岡山市議団を訪問し、会派としての政策提言書「岡山市民未来創生プラン」の作成経過およびその成果について学びました。

このプランは、平成23年から約3年をかけて策定されたもので、市民1万人を対象にしたアンケートを実施。その分析結果を基に、地域団体や町会、NPOを訪問して意見を伺い、「市民とともに創る政策提言書」としてまとめられたものです。

冊子は全155ページに及び、8人の市議が自ら執筆して完成させた力作であり、会派全員が同じ理念のもとに政策形成を行ったことが印象的でした。策定過程では大学教授との政策アドバイザー契約や、サーベイ調査会社との協働など、外部の専門知を積極的に取り入れた点も特徴的です。則武宣弘団長、林敏宏副幹事長からは、作成の背景や運用の工夫について丁寧な説明をいただきました。



2. 参考となった点

岡山市議団の取組は、「計画→実行→検証→改善」のPDCAサイクルを確立し、政策の進捗を定期的に点検・改善することで、39項目のうち9割以上を実現または前進させています。特に「政策進捗確認表」により、政策の“見える化”を実践している点が秀逸でした。

また、政策を個人ではなく会派全体で推進している点が大きな強みです。北川正恭・早稲田大学名誉教授は「議会会派の存在意義を証明した」と高く評価しており、従来“個人プレー”に偏りがちな地方議会において、“チーム議会”の形を確立した先進事例と位置づけています。

さらに、政務活動費を全て調査・広報など政策形成の目的に活用し、市民オンブズマンからも適正と認められていることは、議会活動の透明性・信頼性を示す好例です。

具体的な成果として、保育士の処遇改善や待機児童解消策、大学生まちづくりチャレンジ事業などが挙げられ、実際の政策成果が市民生活に直結している点も強く印象に残りました。

こうした体系的な取組が、議員一人ひとりの政策立案力を高め、市民の信頼につながることを、改めて実感しました。

3. 所感と尼崎市政への活用

本視察で得た学びは、尼崎市における会派マニフェストづくりの在り方に多くの示唆を与えるものです。特に、市民アンケートや地域訪問を通じた「市民参加型の政策立案」、そして「進捗確認表」による政策の見える化は、政策評価や行政との建設的な対話を深めるための有効な手法です。

また、岡山市議団のように外部専門家と連携し、客観的データを基に政策を検証する仕組みを導入することで、政策の質と説明責任をさらに高めることができます。

さらに、“チーム公明”として議員全員が一体となり、共通のビジョンを持って政策を進める姿勢は、尼崎市議会でも共有すべき重要な学びです。議員間の連携を強化し、政策形成を一人の能力に依存させない体制づくりが求められます。

今後は、市民参加・データ分析・政策検証を柱とする「尼崎版マニフェストサイクル」の確立をめざし、行政と議会が互いに補完し合いながら、市民に“見える成果”を着実に届けてまいります。

岡山市議団が示した「継続性・透明性・協働の力」は、まさに地方議会のあるべき姿であり、尼崎市においてもその精神を実践に移していく決意です。

「公明党岡山市議団 マニフェスト」視察報告書

日時 : 2025年11月4日

視察先 : 岡山県 岡山市

公明党岡山市議会議員 則武 宣弘様、林敏宏様

報告者 : 中村 敦子

出席者 : 真鍋修司 中尾健一 田中俊彦 上田士郎 中村敦子

視察内容 : マニフェスト（岡山市民未来創生プラン）について

1、視察の目的

マニフェスト大賞で3度の優秀賞を受賞した公明党岡山市議団を訪問
政策提言書「岡山市民未来創生プラン」の作成経過およびその成果について

2、岡山市民未来創生プランの取組

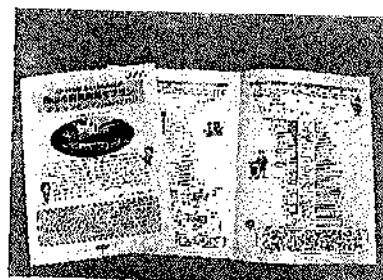
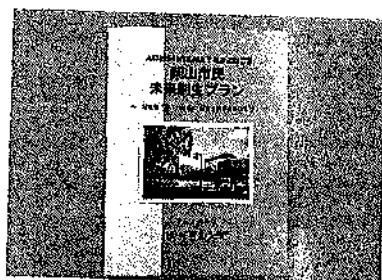
このプランは、進展する少子高齢・人口減少時代に備えるため、平成23年度に市民1万人を対象にした「岡山のまちづくり」に関するアンケートを実施し、平成24年度、平成25年度と調査、分析を重ねて、岡山市民未来創生プランを約3年をかけて策定されました。

『岡山のまちづくり』に関する調査では、アラ30（25～34歳）、アラ40（35～44歳）、少産（45～54歳）、団塊（55～64歳）、高齢（65～74歳）の5種の世代別に分析。岡山市男女別5歳階級別人口構成、回答傾向が似通ったクラスターで分析。

その中で特に重要で実現を急ぐ課題を「岡山市駅を起点とする市街地の活性化」

「市立幼稚園の認定こども園化を中心とする子育て環境の充実」「既存の公的施設の再構築による利便性向上と位置づけ、市議団8人が分担し、提言の執筆を進められました。

策定にあたっては行政、地域活動に取り組む団体169名に市政に関する聞き取り調査も行われました。



3. 参考になった点

岡山市議団の取組は、「計画→実行→検証→改善」のPDCA サイクルを確立し、政策の進捗状況を綿密に検証。創生プランの実現過程を示されています。

39 項目のうち9割以上を実現または前進させています。

そして「政策進捗確認表」により、政策の“見える化”を実践。

また詳細な調査活動を基に練り上げられた政策は、大反響で市長ら市当局の政策担当者も大きく評価。その後、議会でも度々、プランを基に提案や質問は、具体的な裏付けのある提言に対し市局から前向きな回答を得ることができた。

感想：政策課題に対して、アンケートを取ることで、その必要性の根拠を数字的に明示されていた。そして岡山市民未来創生プランは具体的な提案となり、さらに調査の目的を「まちづくりの構想」にしたことで、市民の判断基準や価値観を明らかされています。このような政策プランを作るときには市民の視点からの世代間の傾向や世代間の格差について分析した関係者や行政関係者からのヒヤリングをしっかり行い、進めたいと思いました。

また調査分析の専門的知見を持つ機関や学者など連携も必要であると感じました。



行政視察（会派）レポート

2025 年 11 月 13 日

日時： 2025 年 11 月 4 日（火） 13:00～^{16:00}~~15:30~~

視察先： 岡山県 岡山市 公明党市議団

説明者： 公明党岡山市議団 団長 則武 宣弘氏

公明党岡山市議会議員 林 敏弘氏

参加者： 真鍋修司 中尾健一 中村敦子 田中俊彦 上田さおり

報告者： 田中俊彦

<調査内容>

公明党岡山市議団政策マニフェスト「岡山市民未来創生プラン」について

<概要>

公明党岡山市議団では政策実現のための具体的な政策作成に取り掛かる必要性を感じ、2011年6月から静岡大学教授と政策アドバイザー契約を締結し、市議団独自のマニフェスト作りに着手しました。

政務活動費を活用して、アンケート会社に依頼をし、市民1万人にアンケート調

査を実施。返答率約36%に達し、それらのアンケートを基に、約3年間かけて市議団8名で手分けをして、155ページに及ぶ政策マニフェストを作成されました。

1万人アンケートを基に、主に大きく3つの項目建てをして詳細なマニフェストを作成。各項目ごとに市民ニーズの高かった政策を網羅し、順次PDCAサイクルを回しながら、進捗管理をはかり、政策実現に向けて取り組んでおられます。過去3度の政策コンテスト「マニフェスト大賞」でも表彰を受けられ、掲げた39項目の政策のうち、9割以上の実現、または政策の前進につなげています。

<まとめ>

尼崎市においても非常に重要で、大変勉強になる視察でした。今後本市でも市議団として具体的にどのように政策マニフェストを作成し、市民の皆様に広く周知いただけるか、参考になりました。政務活動費の有効的な活用手法としても大いに参考にし、市民の皆様の政策要望の実現に向けて、本市でも実行できるように、取り組んでまいりたいと思います。

【視察報告書(会派)】

日時:令和 7 年11月4日(火)

視察先:岡山県 岡山市 公明党市議会

説明者: 公明党岡山市議団団長

公明党岡山市議会議員

視察者: 真鍋修司 中尾 健一 中村 敦子 田中 俊幸 上田さおり

報告者: 上田さおり

視察内容: 岡山市民未来創生プラン

概要: 公明党岡山市議団は市民が主役のまちづくりをめざすべく、8人の全議員参加で政策論議を行った。2011年6月、馬井政幸静岡大学教授(当時)を制作アドバイザーに迎え

“市民にとっての課題は何か”“市民のニーズはどのようなところにあるのか”岡山市に課題に対する聞き取り調査を進める中、1万人規模の「岡山市のまちづくりに関する調査」アンケートを実施。

選挙人名簿から無作為に抽出した25歳から74歳までの男女1万人を対象に郵送でアンケートを配布し、予想を大きく上回る3675人から回答を得た。

これを受けて市議団として具体的な政策検討会を重ね政策アドバイザーとともに政策フレームを組み上げ項目ごとに議員担当を決定。3年にわたる調査、分析を経て2014年「岡山市民未来創生プラン」が誕生した。

アンケートには政務活動費を活用、市民オンブズマンおかやまは政務活動費の支出について厳しい監視をしていたがこの度の諸費用については一切問題としなかった。

プランの策定後、議員団は議会質問や予算要望などで施策を推進してきた。このプランは自治体の首長や議員らの政策本位の活動を表彰する「マニフェスト大賞」を三度受賞している。

また、政策の①計画②実行③検証④改善 PDCA サイクルを確立し継続的に政策を実現。創生プランを市議団が共有する財産ととらえ、推進に全員が一丸となって取り組んでいることが政策プランを着実に前へ進めている要因だ。

●岡山市民未来創生プランのポイント

- ・アンケートの結果から岡山市民の約半数は市外で生まれ育った人だったと判明
- ・若年層からのアンケート返信が少なかったことから人材派遣会社通じて面談による回収も行った。
- ・国や県で行う施策は入れずに岡山市のみで完結する施策に絞った。
- ・プランは主に 3 つのプランで構成されている

- ① 岡山駅を起点とする「OKAYAMA ビッグプレイゾーン」の再開発
- ② 日本一子育てしやすいまち、女性が働きやすいまち・OKAYAMA の創生
- ③ 岡山市内多種多様な既存施設を活性化する「市民協働ネットワーク」の構築

・チーム公明の体系的な取り組みによって議会や会派の存在意義が証明されている。

・PDCA サイクルを確立し継続的に政策を実現

例・・・市立園保育士の処遇改善

【Plan 計画】 2014年岡山市民未来創生プラン

【Do 実行】 予算要望・議会で賃金実態の調査を要求・議会で総合計画における支援を要求

【Check 検証】 市立と私立の月額給与を比較 実態が浮き彫りに

【Action 改善】 最重点で予算要望・市長との意見交換会で再度要求



17年度予算に市独自の助成が盛り込まれる

所感

公明党岡山市議団の皆様から様々お話を伺いました。

市民相談の中で市民の最前線で起こりうる多くの課題・要望を肌で感じる事ができたが、さらに課題を整理しどの層にどのような問題があるのか、求められる政策ニーズの優先順位はなにか、体系立てて検討したことはなくどうしても個人の活動に傾きがちだったそうです。

そのことから「岡山市民未来創生プラン」を策定し、“チーム公明”の体系的な取り組みによって議会や会派の存在意義を証明したそうです。市民の本当の声を聴き、必ず市政へ反映させるとの思いが直接お話を伺うことですごく伝わり感動しました。

政策立案の段階から行政とも細かくやり取りをしていたことから信頼関係もできたそうです。

本来お互いに協力し合い、市政をよい方向へとつなげていくことが理想の関係であると思います。

個人の活動ではなくチームの団結の形、皆が同じ目標に向かって取り組んでいるところに、議員個人としての自信も生まれるのだという言葉が印象的でした。

市民の声を幅広い世代から聴くこと、何を優先すべきなのか、チームとして協議し、役割分担し取り組んでいく、今回学ばせていただいたことを参考にわが会派でもぜひマニフェストを作成し、継続的に取り組んでいきたい考えました。

そして改めて団結力を発揮し、自信をもってわが市の発展に力を尽くしてまいりたいと決意させていただきました。